

令和4年度病害虫発生調査速報第7号について

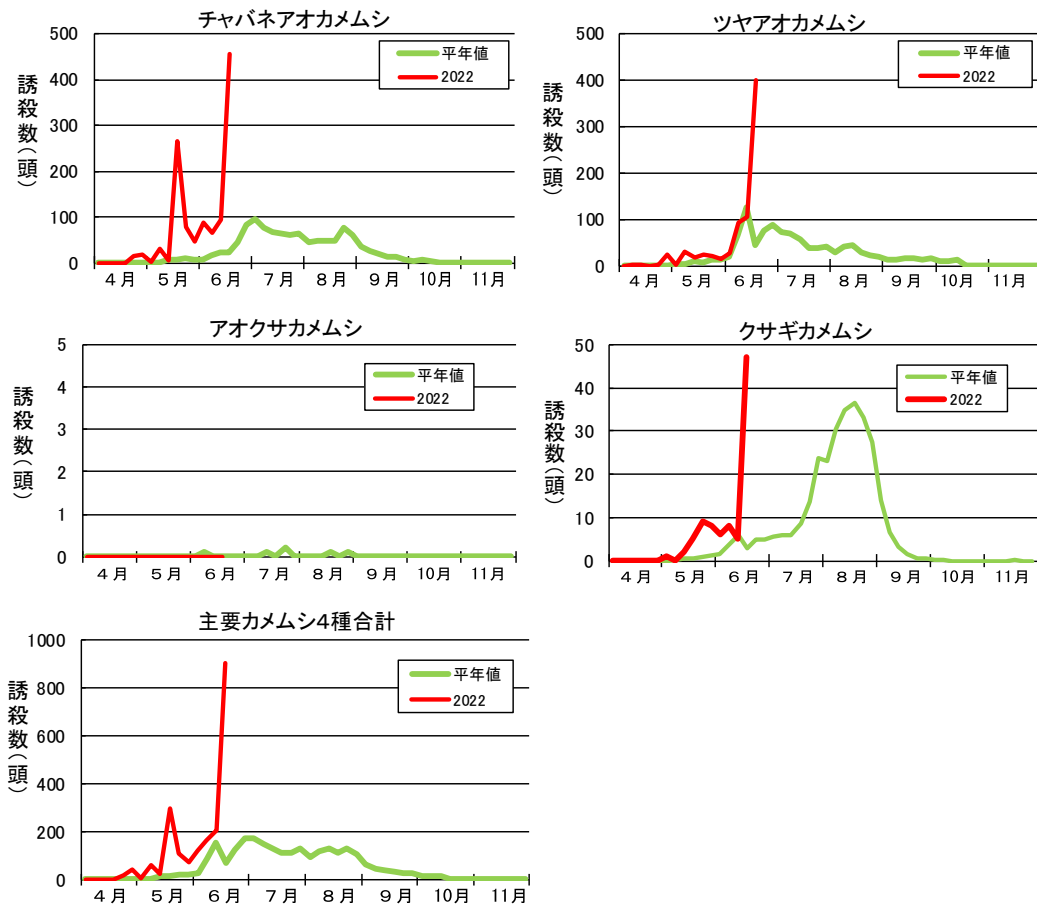
このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和4年度 病害虫発生調査速報 第7号

1. 病害虫名： 果樹のカメムシ類
(特にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)
2. 対象作物： カキ、ナシ、キウイフルーツ、ブドウ、オリーブ、モモ等
3. 調査結果の概要
 - 1) 本年は果樹カメムシ類の越冬世代成虫の発生が平年より早く発生量も多く、令和4年5月24日付け注意報第2号において、注意喚起を図ってきたところである。
このような状況の中、府中果樹研究所（坂出市府中町）の予察灯における5月第1～4半旬までのカメムシ類（主要4種：チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ）の誘殺数は、平年の13.0倍（本年：903頭、平年：69.2頭）と再び急増した。
特にチャバネアオカメムシの誘殺数は平年の21.6倍（本年：455頭、平年：21.1頭）であった。また、ツヤアオカメムシの誘殺数は平年の8.9倍（本年：401頭、平年：45.1頭）であった。さらに、クサギカメムシの誘殺数は平年の15.7倍（本年：47頭、平年：3.0頭）であった。
 - 2) モモの無袋栽培では再びカメムシ類による吸汁被害が認められている。
 - 3) 今後活動が活発になり、県下主要果樹であるカキ、ナシ、キウイフルーツ、ブドウ、オリーブ、モモ等での被害が懸念されるため、防除を遅れないように行う必要がある。
4. 防除対策
 - 1) カキ、ナシ、キウイフルーツ、ブドウ、モモ等の有袋栽培では、できるだけ早く袋かけを行う。
 - 2) 施設栽培の場合は、開放口をネット（4mm目合い）で覆うとカメムシ類の侵入防止対策となる。
 - 3) 圃場内をよく観察し、被害果実やカメムシ類の発生が見られる場合は、早急に薬剤散布を実施する。特にスギ、ヒノキ等が周辺に多い圃場や、過去に被害が認められた圃場では注意する。
 - 4) 多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生初期の散布を徹底する。
 - 5) 成虫は夕方に飛来し夜間加害するので、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行うと効果的である。
 - 6) 黄色蛍光灯は、チャバネアオカメムシには忌避効果があるが、ほかのカメムシには効果がないので注意する。
 - 7) 防除薬剤は、香川県農薬情報システム内で香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針採用農薬を検索するか、香川県果樹研究同志会が発行している果樹病害虫防除暦等を参考にする。
 - 8) 作物によって、登録のある薬剤が異なるので、使用にあたってはラベルをよく読んで、登録の有無や収穫前日数、使用回数等使用基準を遵守する。



第1図 特に誘殺数が多かった果樹カメムシ類 (出典：小豆オリーブ研究所)
 (左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)



カ.

第2図 府中果樹研究所の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>

